

釜石港

- 湾口防波堤災害復旧は、平成30年3月完了。
- 平成28年8月に全ての深部工区のケーソン据付が完了し、12月には、灯台(赤・白)の設置も完了。

項目	進捗率	復旧・復興の状況/被害の状況
湾口防波堤	100%	据付完了 1,960m/全延長1,960m 北堤 堤体据付済990m/全延長990m 南堤 堤体据付済670m/全延長670m 開口部 据付済300m/全延長300m ※H30.3未予定

被災と復旧状況

①被災した北堤



ハイブリッドケーソンの採用

防波堤の復旧には、工期短縮などを目的に、一部でハイブリッド（HB）ケーソンが採用されています。HBケーソンは鋼殻とコンクリートを一体化した部材で構成するケーソンであり、一般的な鉄筋コンクリート（RC）ケーソンより高強度のため、通常よりも長大化が可能です。HBケーソンは千葉県や愛知県、三重県で製作して釜石港まで運ばれ、南堤深部のケーソン等に採用されています。



HBケーソン完成形

HBケーソン入港

泉作業基地

RCケーソンは、釜石港内の泉作業基地で製作を行っています。フローティングドックと海上打ち継ぎ場で複数のケーソンを同時に製作することにより、工期短縮を図っています。また、短期間で大規模な工事を実施するため、資材の確保が重要となることから、泉作業基地には専用コンクリートプラントが設置され、工事の円滑な進捗に寄与しました。



泉作業基地全景

基地内のコンクリートプラント